

## 【業者様用】

# トラブルシューティング (お引渡し前)

### (1) 施工後に市販のワックスを掛けても良いですか？

#### <浸透性塗料>

市販のワックスは、白濁や毛羽立ちなど不具合の原因となることがありますので使用しないで下さい。

#### <コーティング系塗料>

商品によっては、ツヤ感が変わることがありますので、目立たないところでお試し頂くか、マルホンArbor水性クリーナーワックスをご使用下さい。

### (2) 引渡し前にもう一度仕上げと同一のオイルやワックスを塗った方が良いですか？

#### <浸透性塗料>

塗装済みの商品であれば、通常再塗装の必要はありませんが、ブラックウォールナットなど色の濃い樹種に関しては、施工直後、素材の性質上、逆目部分が白濁して見えやすい為、再塗装して頂く事をおすすめします。なお、再塗装の際は、塗り過ぎに注意し、少量を擦り込む様に塗り、十分に拭き取って下さい。塗装後も白濁が残る場合は、気になる部分を#240～320程度のサンドペーパーで木目に沿う様に研磨し、仕上げと同一の塗料で再塗装して下さい。なお、汚れが目立つ場合につきましては、後述の「表面の汚れを落としたい」の項目をご参照下さい。

注意)マルホンArbor植物オイルの商品の上に一度マルホンArbor蜜蝋樹脂ワックスを塗ってしまいますと、オイルが浸透しないため、その後はマルホンArbor植物オイルの塗装が出来なくなります。一度、マルホンArbor蜜蝋樹脂ワックスへ切り替えた場合は、このワックスを使っでのメンテナンスになりますのでご注意ください。



#### <コーティング系塗料>

汚れが目立つ場合はマルホンArbor水性クリーナーワックスでのクリーニングをおすすめします。

### (3) 養生テープの跡が残ってしまった。

#### <浸透性塗料>

養生テープの跡が発生した場合、その部分を#180程度のサンドペーパーで木目に沿って削り落とします。その後、#240～320程度のサンドペーパーで木地調整し、仕上げと同一の浸透性塗料を再塗装して下さい。

#### <Before>



#### <After>



#### <コーティング系塗料>

基本的に、粘着力の弱いテープを使用し、早い段階で剥がして下さい。万が一跡が気になる場合は、無水エタノールを使用して落とすことが出来ます。

### (4) サッシ際など、養生されていない部分が日焼けしてしまった。

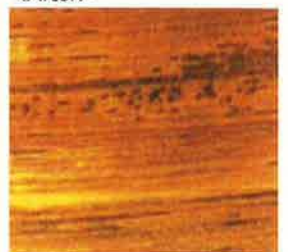
#### <浸透性塗料>

日焼けによって色差が生じた場合、色の境目の部分を10～20cmの幅で#180程度のサンドペーパーで木目に沿って削り落とします。その後、#240～320程度のサンドペーパーで木地調整し、仕上げと同一の浸透性塗料で再塗装します。対処直後は、色差が多少分かりますが、数週間も経過しますと、色差が自然に馴染んで来ます。完全に馴染むのは難しいので、防止するためにも養生の際には隙間を作らないことをおすすめします。サンディングの際強く削るのではなく、軽くほかす程度に行くと自然な仕上がりになります。

#### <Before>



#### <After>



#### <コーティング系塗料>

表面がコーティングされていますので、補修は難しいですが、日焼けの部分と日焼けしていない部分との境目をなくすことにより、時間とともに色が馴染んで来ます。※2種類とも補修後完全に色を馴染ませるのは難しいので、養生時に隙間を作らないことをおすすめします。

### (5) 塗装後の床のべたつきが取れない。

塗装後の乾拭きが不十分か、塗布量が多過ぎる事が原因の「吹き戻し」の可能性があります。

まずは、再度べたつきが無くなるまで乾拭きを行って下さい。

それでもべたつきが取れない場合は、無水エタノールを使用して下さい。

### (6)すり傷が出来た。

#### <浸透性塗料>

浅い傷の場合は、その部分を#180程度のサンドペーパーで木目に沿って削り落とします。その後、#240～#320程度のサンドペーパーで木地調整し、仕上げと同一の浸透性塗料を再塗装して下さい。深い傷が出来た場合は、後述の「割れが生じてしまった」をご参照下さい。

#### <Before>



#### <After>



#### <コーティング系塗料>

表面がコーティングされていますので、サンディング等による補修は出来ません。補修業者等による、コーティング系の再塗装(補修)をおすすめします。

### (7)凹み傷が出来た。

#### <浸透性塗料/無塗装品>

凹んだ場所に少し水を垂らすか、濡れタオル/日本手ぬぐいなどをあてて、しばらく待ちます。(十分に水を木材に馴染ませて下さい。)その後布の上からアイロンを掛けます。5～10秒程度様子を見ながら、押し付けては離す作業を数回繰り返して下さい。特に、杉やパインなどの柔らかい樹種は、より凹み傷が戻りやすく効果的です。目立たなくなってきたら、しっかりと乾燥させた後、その部分を#180程度のサンドペーパーで木目に沿って削り落とします。その後、#240～#320程度のサンドペーパーで木地調整し、仕上げと同一の浸透性塗料で再塗装して下さい。深い傷が出来た場合は、後述の「割れが生じてしまった」をご参照下さい。

※ウレタン/UV塗装の場合、この方法は使えません。塗装が剥けますので、ご自分でメンテナンスは避けて、専門の補修業者にご依頼されることをおすすめします。

\*傷部分に先端の細い針で数ヶ所穴を開けてからアイロンをあてると、より効果があります。

\*木がえぐれていたり、欠けてしまっている場合は補修をしても元に戻らない可能性があります。気になる場合はパテを使用して補修を行って下さい。

#### <Before>



#### <After>



凹み傷が付いた床(杉フローリング)

傷の上に濡れタオルを置きアイロンをあてる。この作業を、凹み傷がある程度元に戻るまで、様子を見ながら数回繰り返します。

乾燥後にサンディングを掛け再塗装を行うと、凹み傷がほとんど目立たなくなります。

### (8)表面の汚れを落としたい。

#### <浸透性塗料>

水拭きは厳禁です。乾拭きもしくはマルホンArbor水性クリーナーワックスで汚れを落として下さい。それでも落とせない頑固な汚れの場合には、その部分を#180程度のサンドペーパーで木目に沿って削り落とします。その後、#240～#320程度のサンドペーパーで木地調整し、仕上げと同一の浸透性塗料で再塗装して下さい。なお、補修当初は再塗装された部分と、その周辺部分とは色やツヤなどに微妙な違いが生じることがありますが、経年変化によって次第に馴染んで来ます。

#### <コーティング系塗料>

弊社推奨のマルホンArbor水性クリーナーワックスでの汚れ落としをおすすめ致します。

### (9)木目にプラスターボードの粉が入った。 (浸透性塗料の場合のみ)

プラスターボードの粉が深く入り込んでいない場合は、エアーで簡単に吹き飛ばすことが出来ます。エアーを使用してもダメな場合は、硬めの歯ブラシで粉やほこりを掻き出し、その後仕上げと同じ浸透性塗料で再塗装して下さい。それでも難しい場合は、粉やほこりをサンドペーパーで削り取り、仕上げと同一の浸透性塗料で再塗装をすることで補修出来ます。

#### <Before>



#### <After>



(10)表面に接着剤が付着してしまった。

#### <浸透性塗料>

ウレタン樹脂系の接着剤が付着した場合は、手やスクレーパーなどで比較的簡単に除去出来ます。それでも除去出来ない場合は、サンドペーパーで周囲をぼかしながら削り取り、その後仕上げと同一の浸透性塗料で再塗装して下さい。

<Before>



<After>



#### <コーティング系塗料>

○付いた直後の場合: コニシ社製「ボンドふき太郎」(拭き取りシートタイプ)等をご使用下さい。  
○付いてから時間が経過している場合: コニシ社製「はがし液KUX」等で拭いて下さい。  
注意)コニシ社製以外の接着剤をご使用の場合には、各製造メーカーにご相談下さい。  
注意)コーティング系塗料で仕上げた商品であっても、木目などに接着剤が残ることがありますので、拭き取りを行う際には、目立たないところで試してから行って下さい。また、あまり強く拭くと、ツヤが変わる恐れがありますのでご注意ください。  
注意)シンナーでの拭き取りは、塗膜を傷める恐れがありますので使用しないで下さい。

(11)割れが生じてしまった。(浸透性塗料の場合のみ)

補修箇所の色に調整したマルホンファーモウウッド・パテを隙間なく擦り込み、乾燥させた後、その部分を#180程度のサンドペーパーで木目に沿って削り落とします。その後、#240～#320程度のサンドペーパーで木地調整し、仕上げと同一の浸透性塗料を再塗装して下さい。

※なお、パイン材の節の欠け・割れにつきましても、上記と同様の方法で補修が可能です。レッドパインはヨーロッパのスウェーデンやフィンランド、ドイツ等が主な生産地となりますが、現地では基本的に土足での使用を前提としておりますので、死節や節の小さな割れは商品の中に混入します。これらはご自身でメンテナンスして頂くこととなります。補修は簡単に出来ますので、木材と触れ合いながら日々の暮らしをエンジョイ頂ければと思います。また、マルホンファーモウウッド・パテの代わりに、パイン材の切れ端等でサンディング粉を作って補修することも可能です。その場合は粉を凹んだ部分に詰めした後、瞬間接着剤を凹んだ部分に注入し、#180か#240のサンディングペーパーで表面を研磨した後、浸透性塗料等を塗って馴染ませます。これで作業は完了です。

(12)水拭きや湿気による毛羽立ちが発生してしまった。(浸透性塗料の場合のみ)

浸透性塗料で仕上げた商品は、水拭き厳禁です。もし、毛羽立ちが発生してしまった場合には、ストッキングにウエスを詰め込んだもので擦ると取り除くことが出来ます。ストッキングの微小な網目が毛羽立ちを取り除くのに適しています。また、台所用のスポンジの硬い面やスチールウールでも同様の効果が期待出来ます。

(13)水シミなどの白濁が発生してしまった。(浸透性塗料の場合のみ)

白濁した部分をマルホンArbor水性クリーナーワックスや無水エタノールで拭き取ると取れる場合もあります。それでも取り除けなければ、その部分を#180程度のサンドペーパーで木目に沿って削り落とします。その後、#240～#320程度のサンドペーパーで木地調整し、仕上げと同一の浸透性塗料を再塗装して下さい。

### <番外編/施工後・お引き渡し後>

#### ●施工後、床が盛り上がり来てしまった!

施工時に十分なクリアランスを取らずに施工した場合、施工後しばらくして床が盛り上がり来る場合があります。この場合には次の様に対処して下さい。  
◇日常生活に支障がない程度の場合は、とりあえず1年間は様子を見て下さい。  
◇その後、どうしても気になる場合は床全面にサンダーを掛けて平らにします。ただし、ウレタン塗装品につきましては、塗膜を削る必要がありますので、それなりの工事になります。

日常生活にも支障が出る場合には、盛り上がっている付近に「のこ」を入れて切り、盛り上がっている部分を抑えることとなります。壁際であれば壁に沿って「のこ」を入れて切り、全体的に床を沈めるときれいに仕上がります。

#### ●床を汚してしまった!

##### ■黒ずみ・皮脂汚れの場合

普段、こまめに掃除をしても、日常生活の中で黒ずみや皮脂汚れが付着することはどうしても避けることが出来ません。そうした汚れは、「マルホンArbor水性クリーナーワックス」を使って落としましょう。

##### ■油はねの場合

時間が経過してべたつきが気になる場合は、油分解効果のあるキッチン用洗剤(中性)をお湯で薄め、雑巾を軽く湿らせて拭き取って下さい。その後は忘れずに乾拭きを行って下さい。

##### ■油・ソース・マヨネーズなどの場合

台所の中性洗剤を溶かしたぬるま湯を使い、よく絞った雑巾で拭いて下さい。

■食べ物・飲み物の場合

すぐに拭き取ることが理想的ですが、時間が経過してシミが残った場合には、水拭きまたは「マルホンArbor水性クリーナーワックス」を用いて、お手入れをして下さい。

■ケチャップ・クレヨン・水性ペンなど

布にベンジンまたはエタノールを付け、手早く拭いて下さい。ただし、コーティング系の塗料の場合はツヤが無くなる場合がありますので、目立たないところで試してからご使用下さい。

■マジックインキ・油性ペンの場合

汚れが付いた直後であれば、消しゴムで落とせる場合がありますので、まずはお試し下さい。それでも落ちない場合は、ベンジンまたはエタノールで拭き取ります。ただし、コーティング系の塗料の場合はツヤが無くなる場合がありますので、目立たないところで試してからご使用下さい。

■洗剤などアルカリ性のもの(浸透性塗料の場合のみ)

洗剤を無塗装やオイル塗装などの無垢フローリングの表面にこぼすと黒ずみが発生します。洗剤はアルカリ性ですので、シミの部分に酸性のお酢などを浸み込ませ、中和させて黒ずみを緩和させた後、その部分を#180程度のサンドペーパーで木目に沿って削り落とします。その後、#240～#320程度のサンドペーパーで木地調整し、仕上げと同一の浸透性塗料を再塗装するとシミが目立たなくなります。(ウレタン系の塗装についてはサンディングは出来ません。)